

●11 月 16 日竹炭づくり試行 里山農園で 見事に成功 5 kg 3 箱 生産 約 1 時間の燃焼時間

11 月 10 日の事務局会議で試行の実施が具体的に決まり、諸準備を山下茂さんが一人で進めていただきました。消防署への届け出や消火器の準備、また炭焼きの材料の寸法切り、そして当日の窯の設置など一人で進めていただきました。農園の 3 号地で類焼がないように周りを整備して防火対策、用具を設置し、13 時から設備や用具の説明、解説をしていただき、自宅の盆栽の松葉を用意して着火されました。約 60 分間で原料の竹をすべて燃やし切り、完全燃焼を確認して用意したジョウロの水を散布して、いこり始めて燃え切って炭化した竹炭の火を消して出来上がりました。温度が下がるのを待ってテスターで通電率を図ってみると 100%を示しました。火を消すために水を掛けましたので、乾燥させると完成した竹炭になります。これまでは木炭を生産するためには、炭窯一杯に原料の竹を詰め込まなくてはなりません。大量の竹を切ってきて、割って窯一杯分を用意することは、想像を超える大作業です。特に運び出す作業やそれを窯場に運ぶ作業、特に木材と違って空洞ですからものすごい量の竹が必要になります。そして一束一束にまとめなければなりません。今回の作業は窯一杯迄材料を用意しなくてもよかったのです。長さ 70 cm に切った割り竹を直径 25 cm に束ねたものを 7 束で作業を進めた材料で試行がされました。本格的な木炭窯で行うのではなくて、軽量で簡単に竹炭を生産できる点では、大変軽微な作業でした。経験を重ねると改良点も見つかり、改善がされるともっと簡単に竹炭生産ができるのではないのでしょうか。山下さんの提案で素晴らしい経験をさせてもらいました。施行には森島大村金田播川吉村石川安岡深田山村が参加し、山下さんが指導されました。



●第 2 回目の竹炭作りの試行 ご参加ください

参加費無料 11 月 20 日（土）13:00 開始～15 時過ぎ解散

第 1 回目の施行に参加できなかった皆様に、再度試みを実施します。多くの方々にご覧になっていただくチャンスを設定しました。現在里山の会が持っている炭窯では木炭最大 350 kg を作れる大規模なもので簡単に竹炭に取り組むことが難しく出来ませんが、1 回目成功した窯で 2 回目の試行をぜひ多くの方々にご参加いただけたらと思っています。申し込み不要 参加人数制限なし 老若男女関係なくご参加ください

●11 月 14 日 八幡市のさくら出会い館での講演会に参加

里山の会が団体で参加している琵琶湖・淀川流域圏連携交流会主催の講演会が開かれました。実は、9 月の里山講演会にお願いしていた摂南大学名誉教授澤井健二氏らによる「淀川における主な災害

と流路の変遷」としての講演会だったのです。

内容をお伝えします。最初にお話しされたのは澤井先生で、日本書紀に堀江と名付けたという記述があること、そして5世紀ころ淀川の流路を安定させるために茨田堤が作られ、大規模な土木工事が行われていて現存していること、安土桃山時代には秀吉が27 kmにも及ぶ京街道を整備させたこと、江戸時代に川村瑞賢、またその後大和川の付け替えがされたこと、しかしその後、度々の洪水が引き起こされ1822年、1885年に大水害があり、1896年明治政府によって14年にわたってわが国初の琵琶湖から大阪湾までの治水工事が行われまして、今日に残る姿になりました。その後1917年には大塚切れで有名な大洪水の発生や1953年の大水害が発生したことが語られました。その後淀川に天が瀬ダム、木津川に高山ダムが建設されたことをお話しされました。

続いて竹蛇籠や中聖牛でおなじみの京都大学防災研究所の竹門康弘准教授から、伝統的河川工法についてのお話がありました。今、日本の多くの河川は上流にダムが建設され、これまで流れ下っていた土砂が供給されなくなっている、それは水の流量対策に対する対策だったので、流れる土砂も計算しなくてはならぬ時に来ているので、木津川で伝統的河川工法を用いての研究を行っている。それが中聖牛や竹蛇籠によるもので、中聖牛だと前の土砂が侵食され、後方に土砂が堆積することが明らかになった。また前方や側方などにワンドが作られて、生物が生息するようになったことを研究成果として報告された。そしてこの作業は市民が参画できる川普請であり、川にある材料を使用する自然に優しい川づくりであるとその意義を報告されました。そして最後に、里山の会は4回の挑戦で、自力で中聖牛を組み立て設置まで行えるようになったこと、そして最も困難な竹蛇籠を編み上げる技術を身につけたことを高く評価されました。里山の会からは大村 南良 山村が参加しました。

●会誌 51 号の編集作業進む 発行間近

今回はコロナ感染防止のために予定してきた事業がほとんど開催不能となりましたので、講演会活動報告 仲間の広場 感想文等の原稿のネタがなく、どうなることと気をもみました、辛うじて調査研究の報告を頂き体裁が整えられました。何よりも結成25周年のために準備されてきたものがあつたのでそれを加えて51号としてまとめました。まさに緊急の急場を救われました。十分満足できる形には整っていませんが、これまで会誌50号までの巻頭の言葉を一挙に掲載させていただいたところは、非常に有意義であり、まとめてお読みいただければさらに里山の会の発展躍進のヒントが得られるのではないかと思います。ご期待ください。

●カヌー体験参加者受付制限受付人数に達する 受付締め切り

この取組みは今年コロナウイルス感染防止で実行できないかもしれないと予想していた取り組みでした。指導いただく藤田カヌーさんが快く引き受けていただいたので、急遽実行することになりました。申し込み期間が短く参加者が集まるかと懸念しておりましたが、わずかの周知期間しかなかったのに定員に達しました。予定していたのは15艇（二人乗り5艇）でしたが申し込み結果は22艇と大幅な超過になりました。これだけの艇を指導するのには想定外のガイドを増強しなければなりませんので藤田カヌーさんにご無理をお願いしなければと思います。遅れて申し込みをされた皆さんには申し訳なく思いますが、またのチャンスにお願いします。できるだけホームページで週刊ニュースをご覧になってくださいね。

●前号で12月の予定として昆虫観察会・しめ縄づくりを12月26日（日）としておりましたが、しめ縄づくりは同日午前中の行事としますが、冬の昆虫観察会については日程調整中です。